

<真剣味>⑫

2014. 11. 5

第4回東日本大震災復興祈願中学校硬式野球交流大会

○11/2 交流レクリエーション(リアル野球ゲーム)、野球教室

○11/3 交流試合、ベースランニング大会

交流レクリエーション(リアル野球ゲーム)を楽しむ中で、感じたことがあった。マシーンが投げていたこともあって投手のコントロールが安定していたので、打球が定位置に飛ぶことが多かった。ということは投手が頑張れば、試合などでも定位置に飛ぶことが多いのかもしれない。だからまずは定位置をきっちり守れば何とか試合になりそうな気がした。

交流試合の第一試合では投手は頑張っていたが、定位置にボールがいてもエラーになることが多く、全くアウトが取れなかった。キャッチボールがうまくいかず、また人工芝でのバウンド合わせもううまくいかなかった。中学野球の負けパターンになってしまった。新チームになってから一番悪く、そして楽しくない試合になってしまった。対戦相手に大変申し訳なく思いました。

今回の復興の交流大会に携わった皆様、そして参加チームに感謝し、これからも続けられるようお願いしたいと思います。本当に有難うございました。

花に水、人に愛、料理は心(ある料理家の言葉)

この言葉は吉本新喜劇の中で出た言葉で、とても印象に残っていました。人の心は傷つきやすいもの。傷つけることは簡単です。特に思春期真ただ中の中学生は「何気ないひと言」でも傷ついたりすることがあります。だから人と接する時のマナーや対応を心がけ、言葉を慎重に選び、責任を持って対応しなければならない。基本は人に優しく。だいたい自分が嫌なことは相手も嫌なことが多いものです。良い人間関係が築けるよう努力しましょう。人の成長があっての野球の成長ですから。レッツトライ!

11月の選手のテーマ「全力疾走」

特に難しいことでもなく、誰でも出来ることである。スポーツをする上で、とても大切なことです。でも月テーマになっているということはできていないということ。特に試合などでは自分の打球の良し悪しで力を抜いてしまう選手がまだいます。とても情けないことです。試合でそういう選手がいると一塁から戻ってくる時にベンチから「ダッシュ、ダッシュ」という声が飛びます。守備側は、打者走者が必至に走っていると心に余裕がなくなり送球ミスにつながることもあるのです。とてももったいないことです。こんなことをしているから、取れる点数が取れずに、負けにつながっているのかもしれないかもしれません。早くこれが当たり前になって、勝てるチームになりたいものです。

✦@ 保護者の素晴らしいチームワーク。2日(日)エコスタの控室に入ると、聞いたことのある声が。三年生の保護者が汗だくになって、試合の運営に携わっていました。我が子が出てなくとも、お手伝いに来てくれたのです。江南シニアの連携は強いと思いました。Goodです。